

見付宿

令和4年 第19回

たのしい文化展

10月29日(土) 9:00~16:00
10月30日(日) 9:00~16:00



中小河川における多自然川づくりに向けた
ミズベリング今流美会の活動について ~今ノ浦川を事例として~

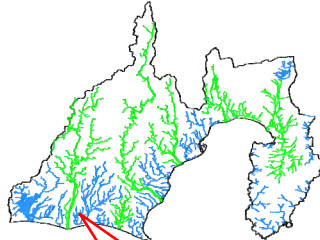
◆話題提供の流れ

1. 見付地先における今ノ浦川の歴史について
2. ミズベリング今流美会の概要
3. 多自然川づくりの取組み
4. おわりに

1. 見付地先における今之浦川の歴史について

■ 河川概要

・対象河川：今ノ浦川 (いまのうらがわ)



今ノ浦川
磐田市・見付地先

- ◇ 太田川水系の右2次支川
- ◇ 流域面積40.09km²
- ◇ 河川延長：L = 7,200m
- ◇ 磐田市見付の中心部を流れる



1. 見付地先における今之浦川の歴史について

昭和20年代

- > 江戸時代、陸の拠点として繁栄した東海道の宿場「見付」の中心を流れる。
- > 建設資材などを川舟で運ぶなど、舟運水路として利用。
- > 見付天神祓祭りの際に身を清めるため、舟を利用し海まで下っていた。

⇒ 地域への密着・愛着が高い

◇ **利水・環境としての河川利用**

昭和49・50年

◇ **治水への関心の高まり(七夕豪雨発生)**

- > 昭和49年の七夕豪雨、昭和50年の集中豪雨によって、床上50cm程度の浸水被害発生。
- > 治水対策が重視され、コンクリート三面張の河川として整備。

平成10年

◇ **環境への関心の高まり**

- > H10年に今流美会（見付宿を考える会）が発足
- > 地元小学校の総合学習で今ノ浦川の環境について講義
- > 袋井土木事務所が低水路整備による水生環境を復元
- > R3年に学識指導のもと、「石組み水制工」の試験施工。

⇒ 多自然川づくりに対する活動

昭和50年出水状況

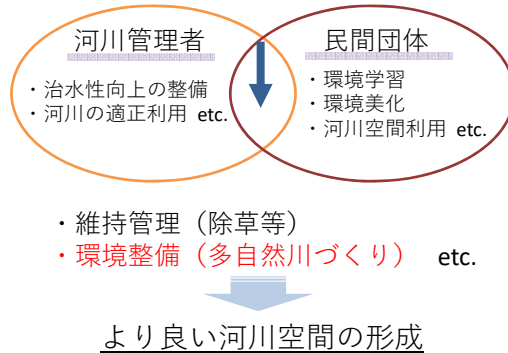
平成14年完成時

1. 見付地先における今之浦川の歴史について

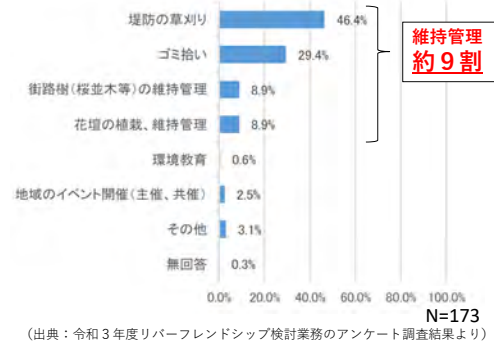
■ 河川にかかわる民間団体の現状

- ・よりよい河川空間の形成には、河川管理につながる**自発的な**活動する河川利用者（民間団体）の存在は重要。
- ・中小河川における民間団体の活動は、維持管理の比重が大きく、多自然川づくりの観点で主体的に活動している団体は少ないのが現状。

< 河川管理者と民間団体との関係性 >



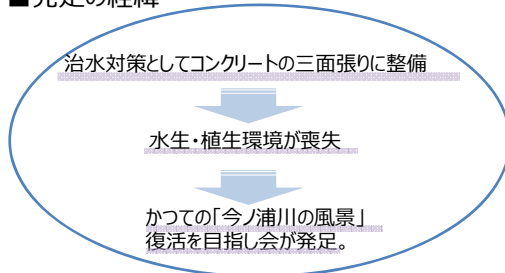
< リバフレの活動内訳（団体アンケート） >



3

2. ミズベリング今流美会の概要

■ 発足の経緯



■ 組織の概要

- ・会の名称：ミズベリング今流美会（現在）
- ・活動期間：平成10年に会が発足
- ・会 員：54名（R4年現在）
- ・活動理念：川が地域住民を結びつけ、
地域から愛されること。

< 主な活動内容 >

- 親水・・・アユのつかみ取り、こいのぼりの掲揚 など
- 維持・・・堤防の草刈り、花壇の植生 など
- **多自然（河川環境）**・・・低水路整備・石組み帯工による整備への協力 など

◇アユのつかみ取り



◇花壇の植生



◇こいのぼり掲揚



6

3. 多自然川づくりの取組み（低水路整備）

■低水路整備の経緯

- ・治水を最優先した整備（コンクリートの三面張り）によって、水生生物や植生環境が喪失。
⇒親水プランの作成や地元小学校の総合学習など、今ノ浦のあるべき姿を袋井土木事務所との協働で検討し、平成13～18年度に袋井土木事務所によって「低水路護岸」の整備が実現。

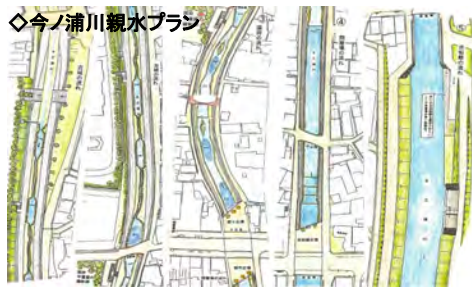
<整備に向けた主な活動>

①今ノ浦川の親水プランの作成

- 今流美会が歴史的な背景からゾーニングを行い、今ノ浦川親水プランを作成。
- 袋井土木事務所に提案し、意見交換会を実施。
⇒地域の考えを反映した設計が実現。

②小学校の総合学習

- 子供たちに今ノ浦川の実態に触れ、環境について考えてもらうため、袋井土木事務所と今流美会が講師として参加。
⇒今ノ浦川の実態に対する関心の高まり。



⇒ 事業化への大きなきっかけとなった



7

3. 多自然川づくりの取組み（低水路整備）

➡ 今流美会の協力により、地域の想いを盛り込んだ形での「低水路整備」を実現。

- ・一部コンクリートを切断、水深20cm確保。
⇒ナマズ、フナなどの水生生物を確認。

◇イメージ案



◇施工前



◇施工後(H16年)



・ビオトープの創出

⇒人が水辺で親しめる水生・植生環境の再現

◇施工後(H13年)



《民官との協働により実現》

⇒川への関心が高まり、利用者の増加。

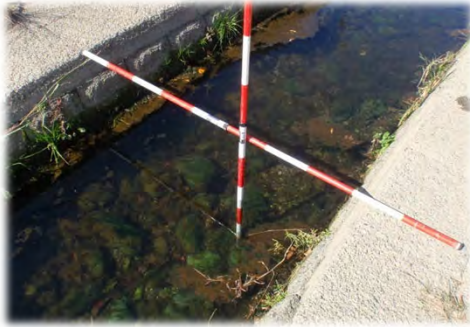
⇒地域の考えが形となることにより、活動へのモチベーションが向上。

8

3. 多自然川づくりの取組み(石組み帯工の整備)

■低水路護岸整備から20年・・・

- ・ 低水護岸の自然河床の低下が進行
⇒利用者の危険性が増加、護岸全体の健全性低下の懸念
- ・ 河川生物の生息環境の多様化へ
⇒水辺への親しみを向上をさせ、更なる河川利用の促進



河床低下（最大で1mの箇所もあり）



杭の裏込め材の流出

➡コストをかけず効果的な対策ができないか袋井土木事務所と検討

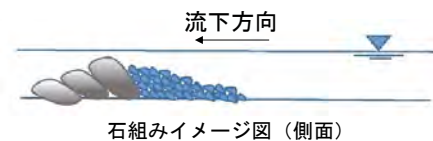
9

3. 多自然川づくりの取組み(石組み帯工の整備)

- ・ 日本大学（安田教授）による「石組み水制工」が活用できないかを袋井土木と検討。
- ・ 安田教授に現地確認をおこなっていただき、施工することに決定。
⇒令和3年度から民・官・学の協力体制のもとで試験的施工を実施。

＜石組み水制工の概要＞

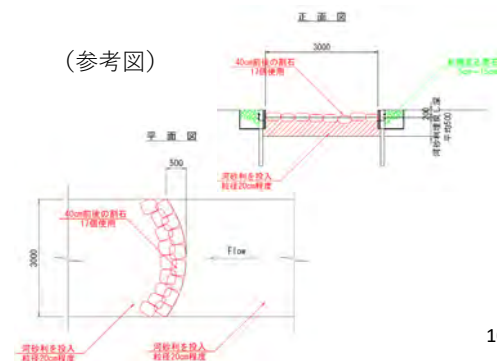
- ・ 主流を上昇することで下流の河床低下を防止
- ・ 水の流れに変化が生まれることにより、水性生物の多様な生息環境が創出
- ・ コストと手間をかけず施工が可能



民・官・学による現地確認を実施




今ノ浦川での石組み水制工の実施を決定



10

3. 多自然川づくりの取組み(石組み帯工の整備)


- 民


今流美会

 →


 - ・地元意見の集約
 - ・県との調整(対策方法検討)
 - ・磐田市との調整(石材)

- 官


静岡県

 →


 - ・対策方法の検討、学識紹介
 - ・フィールド提供
 - ・河川使用申請の支援

- 
磐田市

 →

 - ・必要な石材の提供

- 学


日本大学(安田教授)

 →

 - ・石組み整備のノウハウ
 - ・石組みを実際に施工



今ノ浦公園の整備で出た石材を活用



安田教授

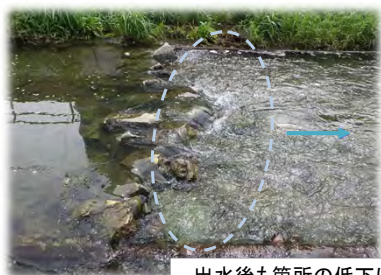


4. 多自然川づくりの取組み(石組み帯工の整備)

■施工直後の状況(令和3年12月)



■施工後の状況(令和4年7月)



出水後も箇所の低下はない



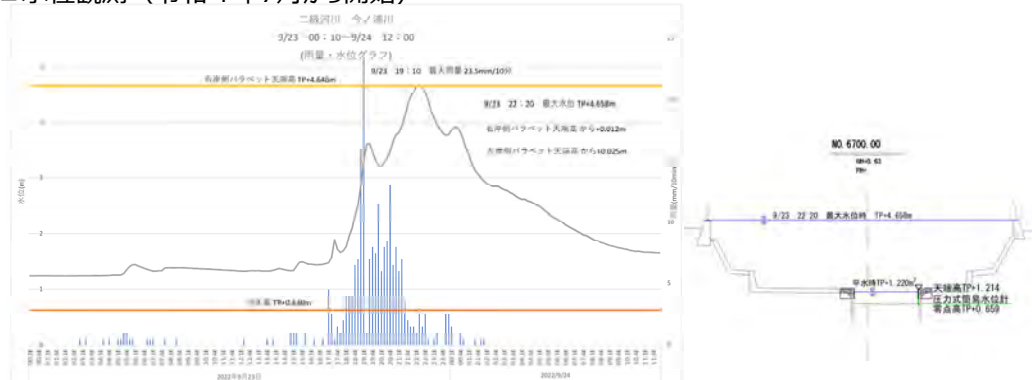
ヨシノボリ

モズクガニ

→ 現在、モニタリングを実施しており、さらに10月には追加施工を予定

4. 多自然川づくりの取組み(石組み帯工の整備)

■水位観測 (令和4年7月から開始)



■出水状況の記録 (令和4年9月23日台風15号による出水)



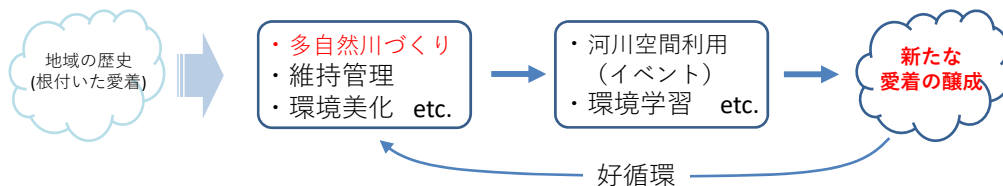
昭和49年の七夕豪雨以来の洪水

12

5. おわりに

■多自然川づくりの取組みにミズベリング今流美会が関わっている要因は・・・、

- 今ノ浦川と地域の歴史(地域特性)により築かれた川への愛着が、活動を支えるなよりの原動力
- より良い河川空間の形成のための民間活動と河川への愛着の醸成が好循環を作り出している



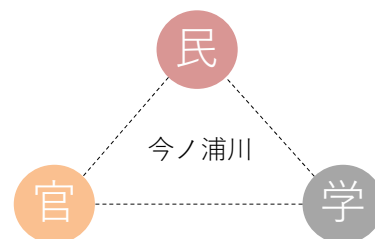
■さらに活動を加速化させていくために・・・、

○「民・官・学」が連携した活動の充実

【石組み水制工の予定】

- R 3 : ・試験施工
- R 4 : ・施工箇所のモニタリング
- ・新たに追加施行の実施

3者による連携の構築は大きな財産
⇒今後いかに連携を活用していけるかが焦点



13